

教育理念

キリスト教の精神に従い、学校教育法の趣旨に基づいた教育を行う。
感謝の気持ち、祈る心を大切にし、自分のしたことと向き合うことや、間違っただけをしたら謝ること、相手を許すことを伝え、自己責任を持てる人になるように理念を掲げ、教育する。
遊びを通して探求心を育て、人とのかかわりの中で自分の思いを友達に伝え、自他を認め、一人ひとりを大切に教育し、自己肯定感を育てる。

教育目標・方針

- 健康な体と心を養います。
- 命を大切にする心を育てます。
- 互いに思いやる優しい心を育みます。
- 基本的な生活習慣・態度の基礎を培います。
- 一人ひとりの個性を伸ばし、感性を豊かに養います。

本年度の学校評価の具体的な目標や計画

- 身体能力を高める。
- 祈りのある生活の中で育まれる、目に見えないものの大切さを伝えていく。

取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
自己肯定感を育てる	できないことをできるように一緒に取り組み、自信を持てるようにし、自己肯定感を育てる。
幼稚園の教育の柱を共有していく	なぜ礼拝するのか、なぜこういうことをするのかを、根本のところまで親や子どもと共有できるように伝えたり指導したりしていく。
保護者へのアピール	保護者に保護者会や講演会に参加していただけるように努力する。 幼稚園の教育方針を明確に打ち出していく。(特に食育・運動・英語教育)
子どもの視点を抑える	子どもの視点を意識し、何に興味関心があるかを引き出し、環境を整える。 カリキュラムを見直し、興味関心を伸ばせる配慮を行っていく。

- 「うんどうノート」をチェックする。怖がらずにやってみようという意欲を育てる。
- 保護者に何に力を入れているのかわかるように、見出しをつけたり、写真を載せたりしながら伝えていく。
- 園の教育理解を図る。

保育の在り方

A

- コロナの3年間があったからか、教員が体調不良で欠勤しても異年齢で過ごすという形をとって、保育を行うことができた。
- 下園後に教員同士、子どものことやその日の保育について話しあうことで、何があったらよいか、どう変えていくとよいのかなど、園児により良い環境に変更することができた。
- 年少児、年中児が1つの保育室で過ごすことにより、助け合いや思いやりの気持ちが育った。また、集団の楽しさと個別の丁寧な指導を行うことができた。
- 子ども同士、跳び箱の跳び方やボールの投げ方などを教え合う姿が見られ、互いに高め合うことができた。また、友達のできることを認め、感謝の気持ちを持つことができた。
- 絵本の時間を楽しみにし、集中して聞く姿が見られている。
- 座っている時間と捉えられていた礼拝の時間は苦痛と言う声が以前はあったが、主の祈りを年長児が前に出て唱える姿を見て、祈ろうとする年中児、年少児が増え、年長児は姿勢を正して祈るようになった。神様やイエス様がなされた話に興味を持ち、興味をもって聖書の話の聞けるようになった。
- 運動ノートにシールを貼ろうと、目標をもって体を動かし挑戦する姿が見られた。体操指導員から、ポイントになることを教わり、手を借りながらも挑戦しようとする姿が見られている。
- コロナ禍の乳児期を育ってきて、外部や人とのかかわりの経験があまりない子どもが入園してきた。殊に外国人に対しては近寄られると逃げようとするので何とか接せられるようにしていただきたいと保護者からの意見があり、昨年度から外国人の方に遊びに来ていただいている。今年度はその方に英語遊びをしていただくことによって英語に興味を持ち、わからなくても言おうとする姿があったり、ハローソングやグッバイソング、プレイソングを歌えるようになったりした。
- 会食や調理活動、園で栽培していた野菜の収穫を通して、苦手な食材と思っていた食べ物に少しでも挑戦して食べることができた。
- 養沢からオタマジャクシをいただき、オタマジャクシをカエルに育てることに取り組んだ。成長観察ができ、脱皮する姿が見られたり、目の前で共食いの姿を観たりし、命について考え、学ぶことができた。
- 園庭にある植物の種などを使い、ネックレスを作ったり色水遊びをしたり、身近な素材を工夫して遊ぶことができた。

A

- プール活動ではレベル別に分かれて入ったことにより、水の怖さより楽しさを感じさせることができたり、泳げる友達に憧れを持って、挑戦しようとするようになったりした。
- 昨年度に引き続き、雑巾がけを行い、腕支持力をつけている。
- 雑巾がけがうまくなっただけでなく、周囲にあるものにも目が向けられ、突進してぶつかって怪我をする子が減った。
- ログハウスの棚の上に登りたいと、腕の力と足を使って上手に登れるようになると、登り棒も楽しむ姿が増えてきた。
- 弦楽器に触れさせたことにより、弦楽器に興味を持った子どもがいた。また、バイオリンとピアノのコンサートを催したことにより、習い始めたバイオリンをもっと上手になりたいという気持ちを起こした。
- サッカー指導のコーチを招き、年長児にサッカーを教えていただいたことで、サッカーを遊びの中でする姿が見られるようになった。また、ボール遊びに興味を持つこともできた。
- 外国人の先生を英語遊びの指導者をお願いし、初めは英語遊びの時間だけいていたが、子どもから関わろうとする様子がなかったこと、遠巻きに見ている姿があったことで、園生活も共に過ごしてもらうようにした。次第に子どもから話しかけたり、関わろうとするようになったりした。また、はじめは英語がわからなくてもそのままにして誰も何も言わなかったが、リピートするようになったり、わかりたいと思うようになってコミュニケーションを図ろうとしたりするようになった。
- 昨年は年中児と年長児は箸作りに挑戦した。年中児はやすりかけのみ、年長児はノコギリで切り、やすりかけをした。ただし、仕上げは保護者の手を借りることになった。今年度は親子でスプーンと箸作りをする時間を設け、親子で木材について学び、大気汚染について考えることができた。年長児は卒園制作として箱作りに挑戦し、丁寧にできるようになったやすりかけ、トンカチを初めて使用し、ペンキ塗りにも挑戦した。箱が完成すると喜んだ。酸素と二酸化炭素についても学び、木の大切さを学ぶことができた。

教師としての資質、保育の質向上

B

- 昨年度末に一人、急遽退職してしまい、募集もなく、ぎりぎりの人数で幼稚園を運営していたこともあり、研修に行くまでの余力がなかった。
- 保護者との対応につまずいた教員は、自己評価を下げていたが、様々なことに柔軟に対応し、前向きに保育に取り組むことができていた。
- 園内研修で学んだことをもとに自分の保育スタイルを変え、自主的に子ども主体で生活できるよう、子どもに一日の予定を話し合いで決めさせ、生活していった。(年長児)
- 年少、年中が1クラスになったことにより、教員が二人で相談しあって保育することができ、心強く、楽しく保育することができたことは、子どもたちの成長につながったように思う。
- お互いの保育を見合う目的で保育研究を行ったが今年度も1クラスだけ行うことができた。保育を客観的にみることによって自分が足りないことに気づいたり、よりよくするためにはどうすべきかを考えたりすることができた。

保護者や地域への対応

B

- 昨年度に引き続き、子どもたちの活動を写真で伝え、現状を理解してもらう努力をしている。昨年度からはhugnoteというアプリを使って日誌を携帯電話で読めるようにした。
- 幼稚園の教育について、ことあるごとに、様々な形で伝えていったが、共有することの難しさを感じた。読む時間や聞く余裕がないのかもしれないと思い、必要なことや大切なことを子どもたちに伝えていけるように切り替えることも必要だと感じた。今後も、発信は続けていきたい。
- Instagramの発信を行ったことにより、見てくれる人が増え、集いの場があるときは参加してくれる方が増えた。また、夏休みには、Instagramとhugnoteで親子体操を発信した。
- ちょっとした言葉のかけ違いで保護者との関係が悪くなることを反省し、保護者に伝えるべきことについて考える時間を持つことができた。
- 保護者から話されたことは教員間で共有して、全教員がそれを踏まえての保護者対応をするようにした。
- 保護者の方がたくさん力を貸してくださり、園児募集ポスターを作ったり、チラシ配布して下さったりした。
- 未就園児の集いは保護者有志の方の力を借りて行っている。快く力を貸して下さっている。

学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

A

- レックススポーツの体操指導員のカも借りながら、担任が子どもたちの今の成長を捉え、何に挑戦させるか、何を身につけるとよいか、話し合い、身体能力の底上げを行っていった。一人ひとりの個人差はあるが、怖くてやらないと言っていた子も泣いてやらなかった子も、挑戦してみようという気持ちで最後は取り組むことができた。
- 身体能力を伸ばすと同時に安全教育も伝えていくことができ、自分の身を守るために必要なことを繰り返し伝えられた。
- 目に見えない大切なものに視点を当てたことにより、自分の気持ちに向き合うこと、友達の気持ちに気付くことを丁寧に指導できた。言葉に対しても、乱暴な言葉が友達にどう伝わるかをわからせたり、気持ちよい言葉がどのような気持ちをもたらせるかも実感させたりして伝えることができた。
- 祈りのある生活の中で、生き物が亡くなったらお墓を作って祈る姿があった。また、社会事象についても祈りを通して興味関心をもたらせることができた。
- 木育を通して、空気のこと、環境のことを学べた。木の大切さを学ぶことができた。やすりかけですべすべになる喜びを経験し、トンカチの扱い方を学び、組み立てて完成する楽しさを感じる事ができた。親子でスプーン作り、箸作りを行い、作品への愛着を感じる事ができた。
- 下には保護者の園評価を載せているが、締め切り後にも提出があり、50%の提出率となり、満足度の9割近くを得ることができた。その中で、「保護者の要望を受け止め改善しようとしている」が低い評価であったので、応じられない要望については真摯に理解していただけるように答えていきたいと思う。

-
- A 十分に達成されている
 - B 達成されている
 - C 取り組まれているが成果が十分ではない
 - D 取り組みが不十分である
-

保護者園評価アンケート結果（満点を100として算出しました）

	項目	点数
1	お子様は、幼稚園生活を楽しんでいる。	93.8
2	幼稚園は、健康な体づくりを子どもにわかりやすく指導し、実践させている。	90.7
3	幼稚園は、一人ひとりを大切にする教育をしている。	98.5
4	幼稚園は、思いやりや優しい心を育てている。	98.5
5	幼稚園は、生命を大切にする心を育てている。	95.4
6	幼稚園は、お子様の安全を守るための取り組みを行っている。（避難訓練等）	95.4
7	幼稚園は、幼稚園施設の整備や園内環境の美化に努めている。	95.4
8	教職員は、来園時や電話などの際には、親切・丁寧に対応している。	96.9
9	幼稚園は、地域・保護者と協力しながらお子様を教育している。（保幼小連携）	90.7
10	幼稚園は、保護者の要望を受け止め、幼稚園の改善に生かそうとしている。	89.2
11	幼稚園は、教育理念や教育方針を分かりやすく伝えている。	95.4
12	幼稚園は、お子様の生活が豊かになるような行事を、幼児の実態に合わせて計画している。	95.4
13	幼稚園は、お子様が様々な表現を楽しみ、表現する意欲を発揮させることができるような環境を整えている。	92.3
14	幼稚園は、様々な表現に触れさせ、情操を育て、自己表現できる人に育てている。	92.3
15	幼稚園は、身近な自然や社会とかかわることができるように配慮している。	92.3
16	幼稚園は、お子様を温かく受け入れる環境を作り、人とかかわる力が育つような配慮をしている。	95.4
17	幼稚園は、お子様の困ったことや保護者の悩みや相談に応じている。	93.8
18	幼稚園は、園児の食育に力を注いでいる。	92.3
19	幼稚園は、外国語や外国人と触れ合う機会を設け、お子様の興味・関心の幅を広げている。	92.3
20	幼稚園は、木育を通して、環境の大切さ、自分の手で物を作る喜びを伝えている。	90.8
21	幼稚園は、お子様の身体能力が高まるよう努め、空間認知能力や、体幹を鍛えている。	92.3
22	幼稚園は、お子様を自己肯定感が持てるように育てている。	96.9

ご意見

- 毎日毎日、幼稚園の先生方には感謝しかありません。息子のやりたい事や気持ちに寄り添っていただき、楽しい幼稚園生活を送れていると感じています。いつもありがとうございます。
- おすすめ幼稚園です。いつも子どもたちを温かく見守ってください、ありがとうございます。
- 毎朝、園庭での挨拶から始まる朝はとても素晴らしいと思っています。恥ずかしながら挨拶できるようになっているのを見るとのぞみ幼稚園に入園させて良かったなと思います。先生方の指導と日々の素晴らしい活動の中で少しずつ大人になっていると思います。私たち親も第一子でわからないことが多く、先生方にアドバイスいただくことがあると思いますが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

今後、取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
自己肯定感を育てる	できないことをできるように一緒に取り組み、自信を持てるようにし、自己肯定感を育てる。
思いを言葉で表現し、伝えられるように導く	言葉の楽しさや、「伝える言葉」の種類を増やせるように言葉遊びを楽しんだり、絵本などの読み聞かせを通して語彙を増やしたりする。 様々な人とコミュニケーションをとることによって、広がりを感じ、自信をつけていけるようにする。(外国人、高齢者など)
様々な表現活動を 楽しみ表現力を養う	美しい日本語を聞いたり、絵画の講師を招いて絵を描く楽しさを感じたりする。 親子で体操する機会を設け、親子で体を動かす楽しさを伝えていく。 演奏家を招き、音楽を楽しみ情操を育てる。
子どもの視点を 抑える	子どもの視点を意識し、何に興味関心があるかを引き出し、環境を整える。カリキュラムを見直し、興味関心を伸ばせる配慮を行っていく。

令和6年度 幼稚園教育目標

- 子どもたちが主体となって園生活を送る。
- 一人ひとりが自分の意見を持ち、自己表現を楽しみ、自信を持って生活する。

学校関係者評価委員の方の意見

- 運動について、ラジオ体操も有効だと聞きましたが、ただ動くだけではなく、きちんと指導していることが良いと思う。
- 研修に行けなかったのは、なぜか？
人手不足で普通の任務が大変だったこと、誰か休めば、休めないという呪縛から心身疲労を起こしていたように思う。
- どこも人手不足で、抱え込みのようなものがある。実習生を採用につなげていけるようにしたらどうか？
- 小さい頃から外国人と接して、ネイティブの英語に触れることは、羨ましい
- 根気よくものづくりができる環境があり、大気のことなど学ぶこともできて良いのではないか

令和5年度 学校関係者評価報告書

令和6年3月21日に学校関係者評価委員会を開催しました。
会議において詳細な令和5年度自己点検評価表を回覧し、評価委員との意見交換を行いました。

■本年度の重点課題

- ・身体能力を高める。
- ・祈りのある生活の中で育まれる、目に見えないものの大切さを伝えていく。

(達成できたこと)

- ・丁寧に、体の使い方や体操の仕方を伝えたことで、伸脚やアキレス腱伸ばしなど、形よく出来る子どもが増えた。また、どこを曲げるのかを指導していったことで、そこに意識をして伸ばそうとしたり曲げようとするようになった。
- ・怖くてできなかったことも、周りの励ましや先生の支えがあってやろうと挑戦し、跳び箱や鉄棒に向かうことができた。
- ・雑巾がけにより腕支持力がついて、登る力、自分を支える力がついた。また、周囲にも目をやり、衝突事故が減ったきた。
- ・聖書の話に興味を持ち聴く姿が見られている。生き物が死んでしまったり、友達が休んだりしたときには自然と良くなるように、天国で楽しく過ごせますようにと祈る姿が見られている。
- ・自分の意見を持ち、友達に伝えられるようになった。そして、自分の言葉で友だちが喜ぶことも傷つくことも知り、友達の思いを考えられるようになった。

(これからの課題)

- ・語彙が乏しかったり、意味も分からずに使ったりして友達を悲しませることもあるので、言葉の楽しさや、「伝える言葉」の種類を増やせるように言葉遊びを楽しんだり、絵本などの読み聞かせを通して語彙を増やしたりする。
- ・様々な人とコミュニケーションをとることによって、広がりを感じ、自信をつけていけるようにする。(外国人、高齢者など)
- ・自主的に行動し、自分たちで園生活をつくっていけるように支えていく。
- ・自信を持たせ、様々なことに挑戦する心を育てる。